



COMP

SPEED

DEPTH

TIME

FEE



DG-Stomp

GUITAR PRE-AMPLIFIER

WITH EFFECTS

取扱説明書

安全へのこころがけ



注意

感電の恐れあり
キャビネットをあけるな



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを示しています。(本体に印刷されています。)

火災・感電・人身傷害の危険を防止するには ~以下の指示を必ず守ってください~

絵表示に
ついて

この「安全へのこころがけ」は製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を使って説明しています。絵表示の意味をよく理解してから、本文をお読みください。



注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為を告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡又は重傷を負う危険の恐れがある内容を示しています。



この機器を使用する前に以下の指示と取扱説明書をよく読んでください。



この機器を分解したり、改造したりしないでください。火災、感電の原因となります。



修理 / 部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずサービスセンターに相談してください。



次のような場所での使用や保存はしないでください。火災、感電の原因となります。
温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)
温度が極端に低い場所
水気の近く(風呂場、洗面台、濡れた床など)や湿度の高い場所
ホコリの多い場所
振動の多い場所
特に自動車内は直射日光などにより非常に高温となります。
この機器を車内に放置しないでください。



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かないでください。火災、感電、故障などの原因となります。



本機は国内仕様です。電源アダプターは必ずAC100Vの電源コンセントに接続して使用してください。エアコンの電源などAC200Vのものがあります。誤って接続すると火災、感電、故障などの原因となります。



付属の電源アダプター(AC-10)以外は使用しないでください。(異なった電源アダプターを使用すると故障、発熱、発火などの原因となります。)



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、重いものを乗せたり、傷つけたりしないでください。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



この機器を単独で、あるいはヘッドフォン、外部アンプ、外部スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快な程の音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。



この機器に、異物 燃えやすいもの、硬貨、針金などや液体(水やジュースなど)を絶対に入れないでください。感電や火災の原因になります。



次のような場合は、直ちに電源スイッチを切り電源アダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、サービスセンターに修理を依頼してください。
電源アダプターのコードやプラグが破損した場合
使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合
異物が内部に入ったり、液体がこぼれた場合
機器が雨などで濡れた場合
機器に異常や故障が生じた場合



ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。また、過度に積み重ねての使用はしないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源アダプターのプラグを抜いておいてください。

この製品は電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

高調波ガイドライン適合品



注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が障害を負ったり、財産が損害を受ける危険の恐れがある内容を示しています。



電源プラグを抜くときは、電源アダプターのコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜いてください。電源アダプターのコードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。



タコ足配線はしないでください。音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



本機とパワーアンプなどの他の機器とを接続する際は、必ずすべての機器の電源を切った上で行ってください。スピーカーなどの破損や故障の原因となります。



本機の電源を入れる際は、必ずMASTERコントロールを0にした状態で行ってください。感電または機器の損傷のおそれがあります。



雑音が発生する装置（モーター、調光器など）や消費電力の大きな機器とは別のコンセントをお使いください。



本機の近くにパワーアンプなどの大型トランスを持つ機器がある場合、ハムやうなりが生じることがあります。その場合は、本機との向きや距離を変えてみてください。また、雑音の原因となるネオンや蛍光灯からは十分に離してご使用ください。



テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しないでください。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じたりテレビ画面に色ムラを生じる場合があります。



本体のお手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きしてください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かないでください。本体の変色や変質の原因になります。



物をぶつかけたり、落としたりの乱暴な取り扱いや、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えたりしないでください。製品に悪い影響を与え、性能を劣化させます。また、思わぬけがの原因となります。



本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行ってください。コードをいたためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。



電源プラグにホコリが附着している場合は、ホコリをきれいに拭き取ってください。そのままの使用は火災、感電、故障などの原因となります。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証は致しかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証は致しかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

バックアップバッテリーについて

DG-Stompには、電源コードがコンセントから外されても内部のデータを記憶するために、メモリー保持用のバックアップバッテリー（リチウム電池）が内蔵されています。バックアップバッテリーが消耗すると内部のデータは消えてしまいますので、大切なデータはあらかじめヤマハMIDIデータファイラー-MDF3などの外部機器に保存するか（23ページ）、データ内容をメモしておいてください。バックアップバッテリーは、3年を目安に交換することをお勧めします。バックアップバッテリーの交換は、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にお申し付けください。

- ・ バックアップバッテリーは自分で交換しないでください。
- ・ バックアップバッテリーは子供の手の届くところに置かないでください。
- ・ ディスプレイに“E5”と表示されると、バックアップバッテリーの消耗によりデータ内容が失われている可能性があります。
- ・ 異常動作、故障修理などの際、データ内容が失われる可能性があります。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンをご使用になるのもひとつの方法です。

ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

このたびは、ヤマハDG-Stompをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品の優れた機能をフルに発揮させると共に、末永くご愛用いただくため、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになった後も不明な点が生じた場合に備えて、保証書とともに大切に保管してください。

目次

各部の名称と機能	5	チューナーモード	21
トップパネル	5	ユーティリティモード	22
リアパネル	8	ユーティリティモードについて	22
接続	9	フットスイッチ機能	22
電源の準備	9	MIDI機能	22
アンプ+スピーカーの接続	9	外部コントロール設定	24
ヘッドフォンの接続	10	EXPペダル設定	24
デジタル出力	10	ワウペダル設定	25
EXPペダルの接続	10	スピーカーシミュレーターの動作モード	25
MIDI機器の接続	10	プリアンプ回路のON/OFF設定	25
コンピューターとの接続	10	エラーメッセージ	26
DG-Stompを使ってみよう	11	故障かな?と思ったら	26
まずは鳴らしてみよう	11	仕様	27
セッティングを変えてみよう	12	MIDIインプリメンテーションチャート	28
パッチを切り替えてみよう	14	ブランクチャート	30
パッチを保存しよう(ストア)	16	サービスについて	32
便利な機能	16		
エフェクトの機能とパラメーター	18		
外部コントロールの設定	20		

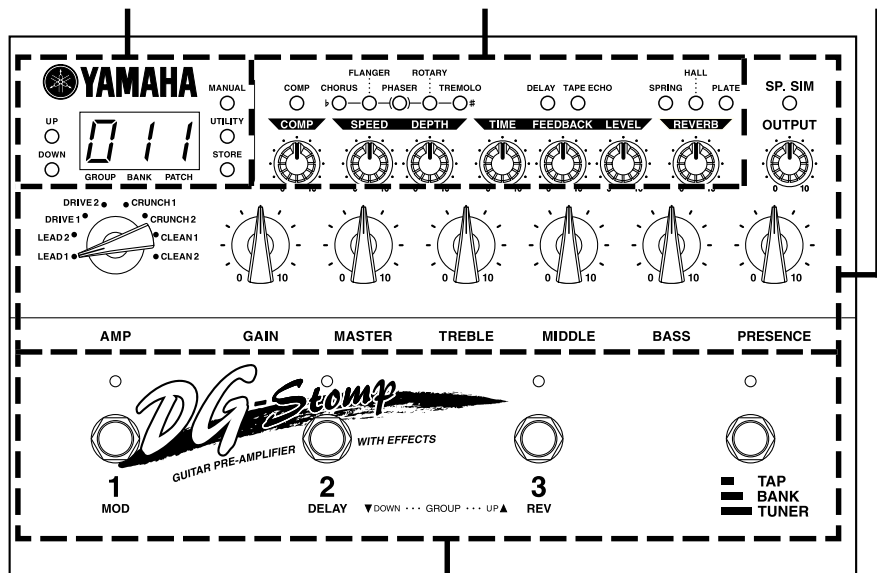
各部の名称と機能

トップパネル

ディスプレイ&メインパート

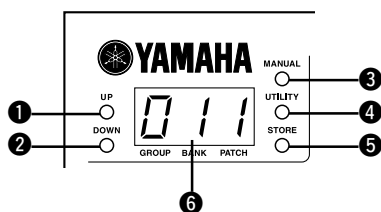
エフェクトパート

アンプパート



フットスイッチパート

ディスプレイ&メインパート



① アップボタン(UP)

② ダウンボタン(DOWN)

パッチ番号を+1/-1します。押し続けるとグループ番号を+1/-1できます。[UP]と[DOWN]を同時に押すと、ユーザープリセットのエリア切り替えができます。

また、ツマミの位置とパッチデータの値の関係をランプの点滅で表わします。

③ マニュアルボタン(MANUAL)

選ばれているパッチの設定とは関係なく、現在の各ツマミ位置でのサウンドに切り替わります。パッチの設定を変更するとランプが点滅します。[UTILITY]と同時に押すと、外部コントロールの設定モードに入ります。(20ページ)

④ ユーティリティボタン(UTILITY)

ユーティリティモードに入ります。(22ページ)
[STORE]と同時に押すと、チューナーモードに入ります。(21ページ)

⑤ ストアボタン(STORE)

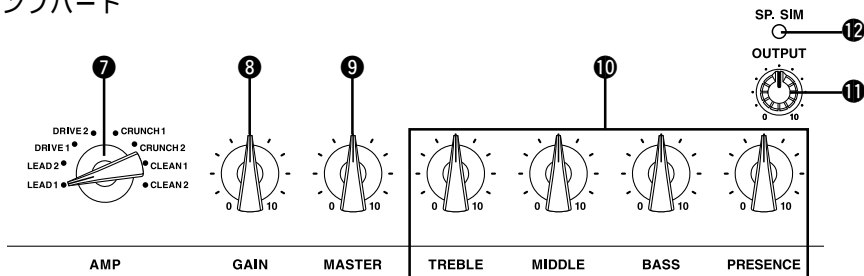
ストアモードに入ります。(16ページ)

⑥ ディスプレイ

メモリーナンバーやパラメーター設定値などを表示します。

各部の名称と機能

アンプパート



7 アンプセレクトスイッチ(LEAD 1 ~ CLEAN 2)
プリセットされている8タイプのギターアンプを選びます。

ユーティリティモードでは、フットスイッチの機能やMIDI機能など、設定する項目を選びます。

8 ゲインボリューム(GAIN)

ディストーションのかかり具合を設定します。

* このつまみが 0 の位置だと、マスターボリューム**9**が上がっていても音が出ません。

9 マスターボリューム(MASTER)

ゲインボリュームおよびトーンコントロールで設定されたサウンドの最終的な音量を設定します。

* MASTERつまみの設定はメモリーに保存されます。

10 トーンコントロール

(TREBLE, MIDDLE, BASS, PRESENCE)
それぞれの音域のトーンを設定します。

11 出力レベルコントロール(OUTPUT)

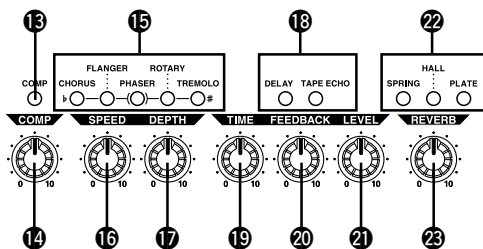
DG-Stompの出力端子(OUTPUT, PHONES)から出力する信号のレベルを調整します。

* OUTPUTつまみの設定はメモリーには保存されません。

12 スピーカーシミュレーターボタン(SP. SIM)
スピーカーシミュレーターのON(点灯)/OFF(消灯)スイッチです。

[UTILITY]と同時に押すと、シミュレーターのタイプを選ぶことができます。(13ページ)

エフェクトパート (参照:『エフェクトの機能とパラメーター』18ページ)



13 コンプレッサーボタン(COMP)

コンプレッサーのON(点灯)/OFF(消灯)を切り替えます。

14 コンプレッサーボリューム(COMP)

コンプレッサー効果の深さを設定します。
右へ回すほど効果が深くなります。

15 モジュレーション系エフェクトボタン
(CHORUS/FLANGER/PHASER/
ROTARY/TREMOLO)

モジュレーション系エフェクトを選択するスイッチです。選択されているエフェクトのランプが点灯します。

ボタンを押しながらSPEEDまたはDEPTHツマミを回すと、追加パラメーターを設定できます。

16 スピードボリューム(SPEED)

モジュレーション系エフェクトのスピードパラメーターおよび追加パラメーターを設定します。

17 デプスボリューム(DEPTH)

モジュレーション系エフェクトのデプスパラメーターおよび追加パラメーターを設定します。

18 ディレイ系エフェクトボタン

(DELAY/TAPE ECHO)

ディレイ系エフェクトを選択するスイッチです。選択されているエフェクトのランプが点灯します。

19 タイムボリューム(TIME)

ディレイタイムを設定します。

20 フィードバックボリューム(FEEDBACK)

ディレイの繰り返し回数を設定します。

21 レベルボリューム(LEVEL)

ディレイ音のレベルを設定します。

22 リバース系エフェクトボタン

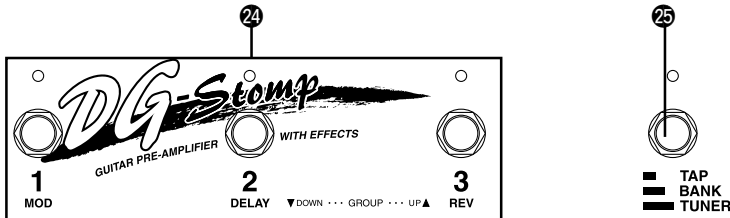
(SPRING/HALL/PLATE)

リバース系エフェクトを選択するスイッチです。選択されているエフェクトのランプが点灯します。

23 リバースボリューム(REVERB)

リバースのかかり具合を設定します。

フットスイッチパート



24 フットスイッチ1, 2, 3

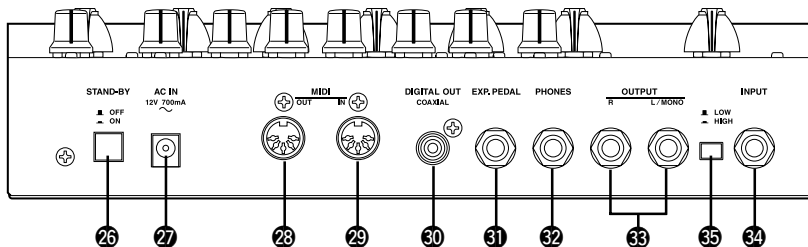
ユーティリティモードでの設定(22ページ)により、次のいずれかの機能で使うことができます。

- ・現在選ばれているバンク内でのパッチ(1/2/3)の切り替え
- ・エフェクトブロックのON/OFF(1 : モジュレーション系、2 : ディレイ系、3 : リバース)

25 バンクスイッチ(TAP/BANK/TUNER)

- ・スイッチを数回押す：押す時間間隔でディレイタイムを設定できます。(19ページ)
- ・ディスプレイが点滅するまでスイッチを押し続ける：フットスイッチ1~3でエリア/グループ/バンクの切替ができます。(15ページ)
- ・ディスプレイに"to"と表示されるまでスイッチを押し続ける：チューナーモードに入ります。(21ページ)

リアパネル



26 電源スイッチ (STAND-BY ON/OFF)

本機の電源スイッチです。

- * スピーカーの保護のため、電源のON/OFF切り替えは、OUTPUTツマミ⑩を“0”にしてから行ってください。

27 電源アダプター端子 (AC IN 12V 700mA)

付属の電源アダプターをこの端子に接続します。

- * 付属の電源アダプター以外は、絶対に接続しないでください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、発火などの原因となります。

28 MIDI OUT 端子

DG-Stompのメモリー内のデータや、コントロールチェンジ、プログラムチェンジなどのMIDIデータを出力する端子です。(22ページ)

29 MIDI IN 端子

MIDIフットコントローラー等のMIDI機器の操作で、DG-Stompのパッチを切り替えたり、ボリュームや各種エフェクトのコントロールを行うことができます。(15ページ)

また、外部に保存したメモリー内容を再びDG-Stompのメモリーに読み込むこともできます。(23ページ)

30 デジタル出力端子 (DIGITAL OUT)

DG-Stompの出力をデジタルデータで出力する端子です。

デジタルミキサーなど、デジタル入力端子(コアキシャル)を持つ機器と接続します。(10ページ)

31 EXPペダル端子 (EXP. PEDAL)

ヤマハFC-7などのフットコントローラー(エクスプレッションペダル 別売)をこの端子に接続して、DG-Stompの各パラメーターをコントロールしたりワウペダルとして使ったりすることができます。(20, 24ページ)

32 ヘッドフォン端子 (PHONES)

ここにヘッドフォン(別売)を接続すれば、夜間など外部に音を漏らさずに練習することができます。(10ページ)

- * ヘッドフォンを接続していても、OUTPUT端子⑬、DIGITAL OUT端子⑩からの出力は出ます。

33 出力端子 (OUTPUT R, L/MONO)

DG-Stompのアナログ出力端子です。パワーアンプ+スピーカーセットやギターアンプ、ミキサーなどの入力端子と接続します。(9ページ)

- * モノラルの機器と接続する場合は、L/MONO側端子と接続します。

34 入力端子 (INPUT)

35 入力レベルスイッチ (LOW/HIGH)

DG-Stompの入力端子です。ギターをここに接続します。ギターの入力レベルに合わせて、LOW/HIGHを切り替えます。出力の大きなギターはLOWに、出力の小さなギターはHIGHに設定します。

- * ギターの接続は、電源スイッチを切った状態で行ってください。

接続

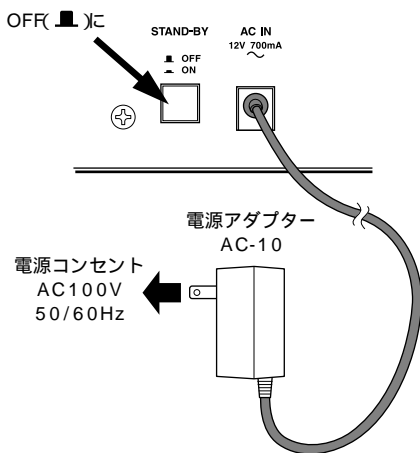


感電と機器の損傷を防ぐため、DG-Stompの各入出力端子との接続は、必ずDG-Stompおよび各機器の電源を切った状態で行ってください。

電源の接続

DG-Stompは、付属の専用電源アダプター(AC-10)で動作します。

1. DG-Stompの電源スイッチ(STAND-BY)をOFF(■)にします。
2. 電源アダプターのプラグをDG-StompのAC IN端子に接続します。
3. 電源アダプターを電源コンセント(AC 100V, 50/60Hz)に接続します。

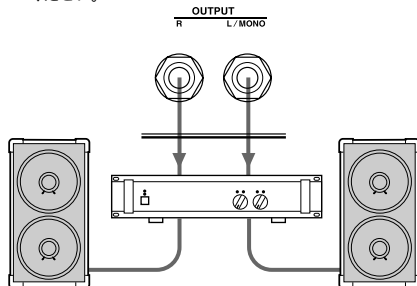


- ❗ 電源アダプターは、必ず付属のAC-10をお使いください。他の電源アダプターを使用した場合、故障、発熱、発火などの原因となり、大変危険です。
- ❗ 電源は、必ずAC100Vを使用してください。
- ❗ 付属の電源アダプターAC-10は、DG-Stomp専用です。他の機器に使用しないでください。

アンプ+スピーカーの接続

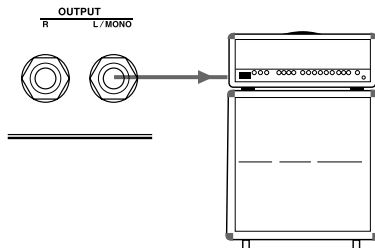
DG-StompのOUTPUT端子にパワーアンプ+スピーカーを接続して、ギターアンプシステムをセットアップしましょう。

1. DG-StompリアパネルのOUTPUT (R, L/MONO) 端子と、パワーアンプの入力端子 (INPUT)とをケーブルで接続します。
 - * ステレオエフェクトの効果を発揮するために、ステレオの機器と接続することをお勧めします。
2. パワーアンプのスピーカー端子 (SPEAKERなど)にスピーカーを接続します。
 - * スピーカーは、必ず使用するパワーアンプの規格に合ったもの(許容入力、システムインピーダンス)を接続してください。



ギターアンプに接続して使うこともできます。

- * ギターアンプにエフェクトループがある場合は、EFFECT RETURN端子に接続することをおすすめします。エフェクトループがない場合は、INPUT端子に接続し、音量・音色をギターアンプで調整してください。
- * モノラル入力の機器と接続する場合は、DG-StompのL/MONO端子と接続します。



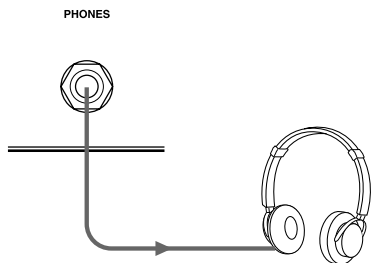
ミキサーなどの入力端子と接続することもできます。

ヘッドフォンの接続

DG-StompのPHONES端子(ステレオ標準)にヘッドフォンを接続すれば、夜間など外部に音を漏らさずに練習することができます。

ヘッドフォンの音量はOUTPUTツマミで調節します。

* ヘッドフォンを接続していても、OUTPUT端子、DIGITAL OUT端子からの出力は出ます。

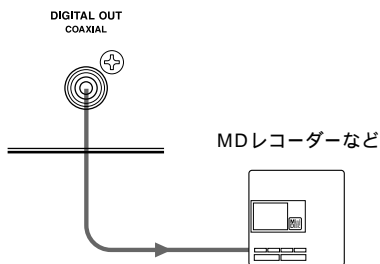


ヘッドフォンをご使用になる場合は、耳をあまり刺激しないよう適度な音量に調節してお楽しみください。

デジタル出力

DG-Stompには、デジタル出力端子(COAXIAL)が装備されていますので、デジタルミキサーやMDレコーダーなどのデジタル入力端子と接続することができます。

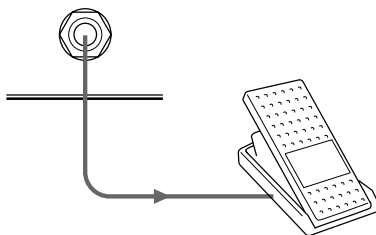
* DIGITAL OUT端子の出力レベルは、OUTPUTツマミでは調整できません(固定)。



EXPペダルの接続

DG-StompのEXP. PEDAL端子にヤマハFC-7などのフットコントローラー(エクスプレッションペダル)〔別売〕を接続すると、DG-Stompの各パラメーターをコントロールしたりワウペダルとして使ったりすることができます。(20, 24ページ)

EXP. PEDAL



MIDI機器の接続

MIDI IN/OUT端子を使って外部のMIDI機器とMIDI情報のやりとりを行うことができます。



DG-Stompのデータを、ヤマハMIDIデータファイラーMDF3などのMIDI機器に保存(パルクダンプ)したり、またそのデータをDG-Stompへ読み込んだりすることができます。

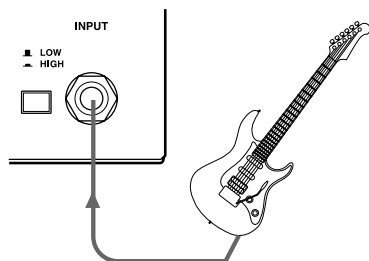
また、MIDIフットコントローラー等の操作で、DG-Stompのパッチの選択、各パラメーターのコントロール、各種エフェクトの設定を行うこともできます。逆に、DG-Stompから外部MIDI機器をコントロールすることもできます。MIDIについての各機能については、『ユーティリティモード〕(22ページ)をご覧ください。


DG-Stompを使ってみよう

それでは、DG-Stompにギターを接続して鳴らしてみよう！

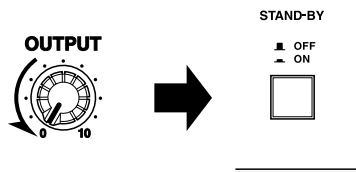
まずは鳴らしてみよう

1. DG-Stompの電源を切った状態で、リアパネルのINPUT端子にギターを接続します。出力の大きなギターを接続した場合は、スイッチをLOW()に、出力の小さなギターを接続した場合はHIGH()に設定します。



2. OUTPUTツマミを“0”の位置にしてから、電源スイッチ(STAND-BY)をON()にします。

! OUTPUTツマミを上げた状態で電源を入れると、接続しているアンプ、スピーカー、ヘッドフォンなどの機器を損傷したり、大音量により耳を痛めたり、思わぬ事故を起こしたりする原因となります。



3. ディスプレイに“011”のように3ケタの数字が表示されます。



この数字は、(グループ番号：0、バンク番号：1、パッチ番号：1)のパッチプログラムが呼び出されていることを表わしています。

この、ディスプレイにパッチプログラムの番号が表示されている状態をプレイモードと呼びます。プレイモードでは、パッチを選び、ツマミやボタンを切り替えて演奏することができません。

まずは、このパッチプログラムで鳴らしてみよう。

4. ギターを弾いて、OUTPUTツマミを右へ回して音量を調整します。



セッティングを変えてみよう

パネルのツマミやボタンを自由に変えて、自分でサウンドを作ってみよう。

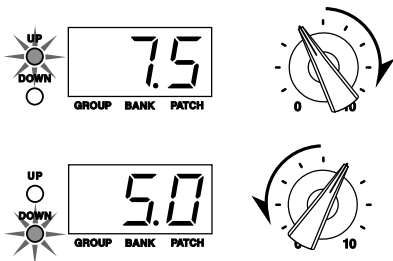
アンプのセッティングを変えてみよう

DG-Stompのパネル上の各ツマミ位置は、実際に鳴っているサウンド(パッチで設定されているセッティング)とは必ずしも同じではないので、次のルールに従ってツマミを回してください。

- ツマミを動かしたときに「UP」のランプが点滅したらツマミを右(10方向)に、「DOWN」のランプが点滅したらツマミを左(0方向)に回してください。

このときディスプレイにはパッチに設定されているそのツマミの値(パッチデータ)が点滅表示されます。

* この点滅表示の状態では、ツマミを動かしてもディスプレイ表示、サウンド共に変わりません。



- ツマミを動かして、パッチデータの値の位置に到達すると、ディスプレイと「UP」/「DOWN」ランプの点滅は止まり、実際のツマミ位置の値がディスプレイに表示されます。サウンドもツマミ位置に従って変わります。

* ツマミを動かすのをやめてから約2秒間は設定値を表示し、通常表示に戻ります。

* 設定値が1つでも変更されると、「MANUAL」のランプが点滅し、パッチデータが変更されていることを示します。また、OUTPUT以外のすべてのツマミの設定を変えた場合は「MANUAL」のランプは点灯したままになります。

- 一度設定値を変更できる状態になると、そのツマミをどの方向に回しても、ツマミ位置の値がディスプレイとサウンドに反映されます。

このしくみはOUTPUT以外のすべてのツマミで共通です。

アンプセレクトスイッチも同様です。ツマミを回すと、パッチで設定されているアンプタイプが点

滅表示されます。そのアンプタイプの位置にツマミを一度合わせてから、設定したいアンプタイプに切り替えてください。

OUTPUTツマミとMASTERツマミ

どちらのツマミを回しても全体の音量が変わりませんが、MASTERツマミの設定はパッチデータに含まれ、OUTPUTツマミの設定はパッチデータに含まれません。パッチ個々の音量設定をMASTERツマミで行い、スピーカーを鳴らすパワー(音量)をOUTPUTツマミで設定します。

エフェクトのセッティングを変えてみよう

各エフェクトブロックのON/OFFや使用するエフェクトも切り替えてみよう。また、各エフェクトのツマミを回して、エフェクトの効果も調整してみよう。

DG-Stompのエフェクトは、次の4ブロックに分かれています。

- ・コンプレッサー(COMP)
 - ・モジュレーション系(CHORUS/FLANGER/ PHASER/ROTARY/TREMOLO)
 - ・ディレイ系(DELAY/TAPE ECHO)
 - ・リバープ系(SPRING/HALL/PLATE)
- ・使いたいエフェクトのボタンを押して、選択(ランプ点灯)します。ただし、ブロック内で同時に1つのエフェクトしか使えません。また、ON(点灯)になっているボタンを押すとOFF(消灯)になり、そのブロックのエフェクトはOFFになります。
- 各ツマミは、そのブロックで選ばれているエフェクトのパラメーターを設定できます。

* 各エフェクトの機能やツマミの設定については、『エフェクトの機能とパラメーター』18ページをご参照ください。

* 各エフェクトのツマミの操作ルールはアンプの場合と同様です。

スピーカーシミュレーターを設定しよう

スピーカーシミュレーターは、実際にスピーカーを鳴らしたときのようなライブ感を、DG-Stompの出力サウンドに付加する回路です。ヘッドフォンで聴いたり、ミキサーやレコーダーにラインで送る場合に便利です。

[SP. SIM] ボタンを押して、スピーカーシミュレーターをON(ランプ点灯)にしてみよう。もう一度押すとOFF(ランプ消灯)になります。

また、DG-Stompには16タイプのシミュレーションプログラムが用意されています。好みのプログラムに変えてみよう。

1. [SP. SIM] ボタンと [UTILITY] ボタンを同時に押します。

ディスプレイに *SPS* と表示された後、現在設定されているシミュレータータイプが表示されます。シミュレータータイプは次の16タイプです。

- ・ *A42* : American Style 12インチ×4
- ・ *B42* : British Style 12インチ×4
- ・ *M42* : Modern 12インチ×4
- ・ *Y42* : YAMAHA 12インチ×4
- ・ *H42* : Hybrid 12インチ×4
- ・ *A22* : American Style 12インチ×2
- ・ *B22* : British Style 12インチ×2
- ・ *M22* : Modern 12インチ×2
- ・ *Y22* : YAMAHA 12インチ×2
- ・ *H22* : Hybrid 12インチ×2
- ・ *A12* : American Style 12インチ×1
- ・ *M12* : Modern 12インチ×1
- ・ *Y12* : YAMAHA 12インチ×1
- ・ *H12* : Hybrid 12インチ×1
- ・ *410* : 10インチ×4
- ・ *210* : 10インチ×2

2. [UP] [DOWN] ボタンでシミュレータータイプを設定します。

3. [UTILITY] ボタンを押すと、プレイモードに戻ります。

* このスピーカーシミュレーター設定は、パッチデータに含まれます。またユーティリティモードにおいて、パッチデータでの設定に関係なく常にシミュレーターをON、またはOFFに設定することもできます。(25ページ)

* MASTERボリュームおよびトーンコントロールを上げている場合、スピーカーシミュレーター回路で信号がクリップしてしまふことがあります。その場合はMASTERボリュームを少し下げてください。

あなたが変更したセッティングは、別のパッチを選ぶと元の状態に戻ってしまいます。セッティング状態を保存しておきたい場合は、16ページのスストア操作を行ってください。

パッチを切り替えてみよう

DG-Stompには、全部で180個のパッチプログラム(以下パッチと呼びます)がメモリーされています。

この180個のパッチは、2エリア、10グループ、3バンク、3パッチという構成になっています。

・エリア

ストア操作によりメモリー内容を自由に書き替えることができるユーザーエリア(90個)と、設定を変更して使えるがメモリー内容の書き替えはできないプリセットエリア(90個)の2つがあります。

プリセットエリアが選択されている場合は、ディスプレイの100の位の右下にドットが表示されます(011~933)。ドット表示がない場合(011~933)は、ユーザーエリアが選択されていることを表わしています。

* 工場出荷時、プリセットエリアとユーザーエリアには同じパッチデータが入っています。(別紙「パッチリスト」参照)

・グループ

各エリアの90個のパッチは、10のグループ(0~9)に分かれています。

・バンク

グループは、それぞれ3つのバンク(1~3)に分かれています。

・パッチ

1つのバンクには、3つのパッチ(1~3)が入っています。

さあ、それではパッチを切り替えて、いろいろなサウンドを試してみよう。

パッチの切替には、次の3通りの方法があります。

パネルの[UP][DOWN]ボタンで行う方法

・[UP] ボタンを1回押すごとに1つ次のパッチが呼び出されます。

```
0 1 1 0 1 2 0 1 3 0 2 1 0 2 2
0 2 3 ..0 3 3 1 1 1.....9 3 3 0 1 1
0 1 2.....9 3 3 0 1 k(元に戻る)..
```

[DOWN] ボタンを1回押すごとに1つ前のパッチが呼び出されます。

・[UP] ボタンを押し続けると、グループ番号が1ずつ増えます。

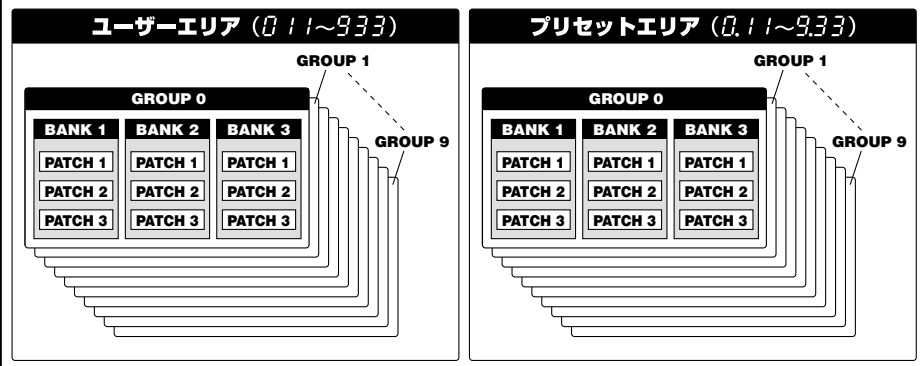
```
0 1 1 1 1 2 1 1.....9 1 1 0 1 1
1 1 1 2 1 1.....9 1 1 0 1 k(元に戻る)..
```

[DOWN] ボタンを押し続けると、グループ番号が1ずつ減ります。

・[UP] ボタンと[DOWN] ボタンを同時に押すと、ユーザーエリア プリセットエリアを切り替えることができます。

```
0 1 1 0 1 1
```

・パッチの構成



フットスイッチ、BANKスイッチで行う方法

- フットスイッチ1～3を押すと、現在のグループ/バンクで、押したフットスイッチの数字のバンク1～3が呼び出されます。

* ユーティリティモードでフットスイッチの機能を“EFF”に設定しているときは、フットスイッチでパッチの切り替えはできません。(22ページ)

- BANKスイッチをしばらく踏んでディスプレイとフットスイッチのランプが点滅した状態になったら、スイッチから足を離します。以下、この状態での操作です。

* ユーティリティモードでフットスイッチの機能を“EFF”に設定しているも、BANKスイッチを踏んでこのモードには入ることができます。

- フットスイッチ1を1秒以上押し続けると、ユーザーエリア プリセットエリアを切り替えることができます。エリアが切り替わると、フットスイッチのランプが点滅します。
- フットスイッチ2を1秒以上押し続けると、グループ番号が1ずつ減ります。グループ番号が切り替わると、フットスイッチのランプが点滅します。
- フットスイッチ3を1秒以上押し続けると、グループ番号が1ずつ増えます。グループ番号が切り替わると、フットスイッチのランプが点滅します。
- フットスイッチ1～3を押すと、押したフットスイッチの数字のバンク1～3が呼び出されます。
- バンクを選択すると、ディスプレイとフットスイッチのランプが速く点滅した状態になります。この状態でフットスイッチ1～3を押すと、押したフットスイッチの数字のバンク1～3が呼び出されます。

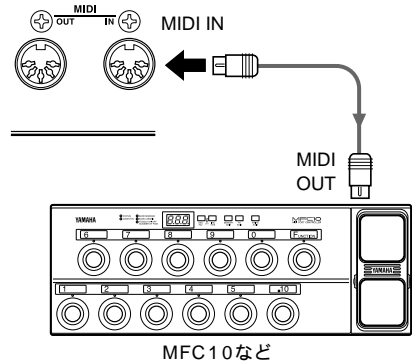
* パッチ選択を中断したい場合は、BANKスイッチを押します。元の状態に戻ります。

MIDIコントロールで行う方法

ヤマハMIDIフットコントローラーMFC10などの外部MIDI機器からMIDIプログラムチェンジを送信することで、DG-Stompのパッチを切り替えることができます。

- DG-StompのMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子とをMIDIケーブルで接続します。

* MIDIケーブルはMIDI規格のものをお使いください。また、MIDIケーブルは15mが限度とされています。これ以上長いケーブルの使用は、誤動作などトラブルの原因となります。



- DG-StompのMIDI受信チャンネルを外部MIDI機器のMIDI送信チャンネルに合わせます。

23ページ『MIDI受信チャンネルの設定』

- プログラムチェンジャー*を作成します。
(プログラムチェンジNo. : パッチNo.の初期値は、1 : 011, 2 : 012.....128 : 4.12)
22ページ『プログラムチェンジャー*の作成』

* たとえば『プログラムチェンジャー* 1』を受信したらDG-Stompのパッチナンバー“113”をリコールする」といったように、受信したプログラムチェンジャー*に対応させるパッチナンバーを指定する作業です。

- 外部MIDI機器からプログラムチェンジャー*を送信すると、作成したプログラムチェンジャー*に従ったパッチが選ばれます。

* プログラムチェンジャー*の送信のしかたについては、外部MIDI機器の取扱説明書などをご覧ください。

パッチを保存しよう(ストア)

ユーザーエリア(011~933)には、オリジナルのセッティングを保存(ストア)しておくことができます。気に入ったサウンドができたなら、そのセッティングを保存しておきましょう。

保存(ストア)の手順

- [STORE] ボタンを押します。
ストアモードに入り、ディスプレイに[STORE] ランプ、パッチ番号と同じ番号のフットスイッチのランプが点滅します。
- ストア先のパッチ(グループ、バンク、パッチ番号)を選びます。
パッチの選び方は、『パッチを切り替えてみよう』(14ページ)と同様です。[UP][DOWN] ボタンでもフットスイッチ、BANKスイッチでもOKです。ただし、エリアの切り替えはできません(ユーザーエリアに固定)。
- ストア先のパッチを選んだら、[STORE] ボタンを押し続けます。
すべてのランプが点灯したら、ストア完了です。

* ユーティリティモードの各種設定は、個々のパッチには保存されません。各パッチ共通の設定として、DG-Stomp本体に保存されます。

* OUTPUTツマミの設定は保存されません。バックিংとソロの時の音量差などは、MASTERツマミで設定してください。

* ユーザーエリア(011~933)のデータは、外部MIDI機器に保存することができます。(23ページ)

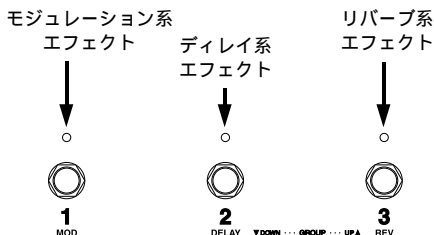
新しいパッチを作ってストアするだけでなく、ライブで使う順番にパッチを並べ替えたりする場合も、このストア操作を行えば便利です。

便利な機能

DG-Stompを使う上で、便利な機能を紹介しましょう。

フットスイッチ1~3でエフェクトのON/OFFを切り替える

フットスイッチ1でモジュレーション系エフェクトのON/OFF、フットスイッチ2でディレイ系エフェクトのON/OFF、フットスイッチ3でリバーブ系エフェクトのON/OFFの切り替えができるように、設定することができます。



- [UTILITY] ボタンを押し、アンプセレクトスイッチをLEAD1の位置にセットします。
ユーティリティモードに入り、ディスプレイに“FS”と表示した後、現在設定されているフットスイッチ機能が表示されます。
・ *PrG* : パッチの切り替え
・ *EFF* : エフェクトブロックのON/OFF
- [UP][DOWN] ボタンでフットスイッチ機能を *EFF* に設定します。
- [UTILITY] ボタンを押すと、プレイモードに戻ります。
- フットスイッチ1~3を押すと、各エフェクトブロックのON/OFF切り替えができます。

* バンクやグループ、エリアを切り替えるには、ディスプレイとフットスイッチのランプが点滅するまでBANKスイッチを踏み続けます。(15ページ)

パッチを使わない使い方

[MANUAL] ボタンは、パッチを使わずにDG-Stompを使うためのスイッチです。

[MANUAL] ボタンを押してマニュアルモードに入る(ランプ点灯)と、すべてのツマミとエフェクトボタンが、そのポジションや設定の状態でも機能します。

マニュアルモードでは、すべてのツマミ、ボタンをダイレクトに設定できます。

パッチを呼び出すと、マニュアルモードから抜けます。ディスプレイに表示されているパッチ番号のフットスイッチ(1~3)を押せば、マニュアルモードに入る前の状態に戻ります。

また、モジュレーション系の追加パラメーターを変更するとマニュアルモードから抜け、[MANUAL] ランプが点滅する状態になります。

フットペダル(コントローラー)を使う

EXP. PEDAL端子にヤマハFC-7などのフットコントローラー(エクスペッションペダル)別売などを接続して、DG-Stompのボリュームやトーン、エフェクトのパラメーター(設定値)をコントロールしたり、ワウペダルとして使うことができます。

20ページ『外部コントロールの設定』

外部MIDI機器でDG-Stompをコントロールする

外部MIDI機器のMIDI OUT端子とDG-StompのMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続して、外部MIDI機器からDG-Stompのボリュームやトーン、エフェクトのパラメーター(設定値)をコントロールしたり、ワウペダルとして使うことができます。

20ページ『外部コントロールの設定』

クロマチックオートチューナー機能

プレイモードで[UTILITY]と[STORE]ボタンを同時に押すか、ディスプレイに"t"が表示されるまで BANKスイッチを押し続けると、チューナーモードになります。チューナーモードでは、クロマチックオートチューナーとして動作します。

21ページ『チューナーモード』

ファクトリープリセットの方法

[UP]と[MANUAL]のボタンを押しながら電源スイッチをON()にすると、ファクトリープリセットが実行され、ユーザーエリアの内容はすべて別紙『パッチリスト』の内容に書き換えられます。

ファクトリープリセットを実行すると、あなたがストアしたパッチ内容はすべて消えてしまいます。必要なデータはあらかじめ外部MIDI機器に保存したり、セッティングをメモすることをお勧めします。

エフェクトの機能とパラメーター

コンプレッサー

COMP(コンプレッサー)

設定レベル以上の入力信号(ピーク)を抑えるエフェクトです。

- COMPツマミ
右に回すほどコンプレッション効果が強くなります。“0.0”にすると効果はありません。

モジュレーション系エフェクト

CHORUS/FLANGER/PHASER/ROTARY/TREMOLOの5つのエフェクトがあります。

- パラメーターは、SPEEDツマミとDEPTHツマミを単独で設定する2種類と、エフェクトボタンを押しながらツマミを回すと設定できる追加パラメーター2種類があります。
- 追加パラメーターの設定もパッチに保存されません。パッチを切り替えると、そのパッチにストアされている追加パラメーターの設定になります。
- モジュレーション系エフェクト内でエフェクトを切り替えた場合、SPEEDツマミおよびDEPTHツマミ単独で設定するパラメーターの値は、切り替え前のエフェクトの設定が使われます。
追加パラメーターの値は、切り替え後のエフェクトを前回使用した時の設定が使われます。(追加パラメーターの値は、エフェクトごとに常に本体に記憶されています。)
- 追加パラメーターを初期化するには、モジュレーション系の5つのランプがすべて点灯するまで、そのエフェクトボタンを押し続けます。

CHORUS(コーラス)

一般的なコーラスエフェクトです。

- SPEEDツマミ
ピッチを揺らす速さを設定します。
- DEPTHツマミ
ピッチを揺らす深さを設定します。
- SPEEDツマミ+[CHORUS]
ディレイタイムを設定します。
- DEPTHツマミ+[CHORUS]
コーラス効果のミックスレベルを設定します。

FLANGER(フランジャー)

ジェットサウンドが得られるエフェクトです。

- SPEEDツマミ
ピッチを揺らす速さを設定します。
- DEPTHツマミ
ピッチを揺らす深さを設定します。
- SPEEDツマミ+[FLANGER]
ディレイタイムを設定します。
- DEPTHツマミ+[FLANGER]
フィードバックレベルを設定します。

PHASER(フェイザー)

位相(フェイズ)を周期的に変化させて、音にウネリを持たせるエフェクトです。

- SPEEDツマミ
フェイズの変化スピードを設定します。
- DEPTHツマミ
フェイズ効果の深さを設定します。
- SPEEDツマミ+[PHASER]
フィードバックレベルを設定します。
- DEPTHツマミ+[PHASER]
フェイズ効果のミックスレベルを設定します。

ROTARY(ロータリースピーカー)

2ウェイロータリー(回転)スピーカーをシミュレートしたエフェクトです。

- SPEEDツマミ
低域側スピーカーの回転速度を設定します。
- DEPTHツマミ
高域側スピーカーの回転速度を設定します。
- SPEEDツマミ+[ROTARY]
左右のマイクの角度を設定します。“0.0”でモラルに、“10.0”でマイクを180度に関して音を録っている設定になります。
- DEPTHツマミ+[ROTARY]
低域側スピーカーと高域側スピーカーの音量バランスを設定します。

TREMOLO(トレモロ)

音量を周期的に変化させるエフェクトです。

- SPEEDツマミ
音量を変化させる速さを設定します。

- ・ DEPTHツマミ
音量の変化幅を設定します。
- ・ SPEEDツマミ +[TREMOLO]
左右の音の位相差を設定します。0度から360度(0.0 ~ 10.0)まで。“5.0”でステレオパンポットになります。
- ・ DEPTHツマミ +[TREMOLO]
トレモロ波形を設定します。“0.0”で三角波、ツマミを右に回すほど台形波がきつくなります。

ディレイ系エフェクト

DELAYとTAPE ECHOの2つのエフェクトがあります。

DELAY(ディレイ)

デジタルディレイエフェクトです。原音を遅らせてくり返します。

- ・ TIMEツマミ
ディレイタイム(原音からディレイ音までの時間)を設定します。

ディレイエフェクトがONになっているときは、TIME(ディレイタイム)パラメーターの設定を、BANKスイッチのタップで設定することができます。設定したいタイミングでBANKスイッチを数回押す(踏む:タップ)と、その押した時間間隔がTIMEパラメーターに設定されます。

- ・ FEEDBACKツマミ
ディレイ音のくり返し回数を設定します。
* 回しすぎると発振する場合があります。ご注意ください。
- ・ LEVELツマミ
ディレイ回路へ送る信号の量を設定します。
* 同じディレイ設定で、LEVEL=0以外のパッチからLEVEL=0のパッチに切り替えた場合、前のパッチのディレイ成分はそのまま残ります。もちろんパッチ切り替え後の音にはディレイはかかりません。

TAPE ECHO(テープエコー)

テープ式エコーのサウンドを忠実にシミュレートしたデジタルテープエコーです。

- ・ TIMEツマミ
ディレイタイム(原音からエコー音までの時間)を設定します。
* DELAYエフェクトと同様に、TIME(ディレイタイム)パラメーターの設定を、BANKスイッチのタップで設定することができます。

- ・ FEEDBACKツマミ
エコー音のくり返し回数を設定します。
* 回しすぎると発振する場合があります。ご注意ください。
- ・ LEVELツマミ
テープエコー回路へ送る信号の量を設定します。
* 同じテープエコー設定で、LEVEL=0以外のパッチからLEVEL=0のパッチに切り替えた場合、前のパッチのエコー成分はそのまま残ります。もちろんパッチ切り替え後の音にはエコーはかかりません。

リバーブ系エフェクト

SPRING、HALL、PLATEの3タイプのデジタルリバーブがあります。

SPRING(スプリングリバーブ)

ピンテーゼギターアンプのスプリング式リバーブをシミュレートしたリバーブです。

- ・ REVERBツマミ
リバーブ回路へ送る信号の量を設定します。

HALL(ホールリバーブ)

ホールの響きをシミュレートしたリバーブです。

- ・ REVERBツマミ
リバーブ回路へ送る信号の量を設定します。

PLATE(プレートリバーブ)

鉄板式リバーブをシミュレートしたリバーブです。

- ・ REVERBツマミ
リバーブ回路へ送る信号の量を設定します。

* 同じリバーブタイプで、REVERB=0以外のパッチからREVERB=0のパッチに切り替えた場合、前のパッチのリバーブ成分(残響音)はそのまま残ります。もちろんパッチ切り替え後の音にはリバーブはかかりません。

外部コントロールの設定

EXP. PEDAL端子にヤマハFC-7などのフットコントローラー(エクスプレッションペダル)別売などを接続して、DG-Stompのボリュームやトーン、エフェクトのパラメーター(設定値)をコントロールすることができます。また、同様のコントロールをMIDIコントロールチェンジによっても行うことができます。

設定手順

1. プレイモードで[MANUAL]と[UTILITY]ボタンを同時に押します。

外部コントロール設定モードに入り、ディスプレイに“*Ctrl*”と表示されます。

2. [COMP]ボタンを押します。

ディスプレイにはコントロール番号が表示されます。

[UP][DOWN]ボタンでコントロール番号を設定します。

DG-Stompでは外部コントロールの設定を8つ(コントロール番号:1~8)まで記憶しておくことができますので、8種類のコントローラーを使って異なるパラメーターをコントロールしたり、1つのコントローラーで8種類のパラメーターをコントロールするなどできます。

3. [CHORUS]ボタンを押します。

ディスプレイにはコントローラーの種類が表示されます。

[UP][DOWN]ボタンでコントローラーの種類を設定します。

- ・ *EXP* : EXP. PEDAL端子に接続したフットコントローラーでコントロールする場合。

- ・ *1-31, 64-95* : MIDI IN端子に接続した外部MIDI機器からのコントロールチェンジでコントロールする場合。そのコントロールチェンジ番号を選びます。(MIDIコントロールチェンジ番号については、外部MIDI機器の取扱説明書をご覧ください。)

4. [FLANGER]ボタンを押します。

ディスプレイにはパラメーターの種類が表示されます。

[UP][DOWN]ボタンでコントロールするパラメーターを設定します。

- ・ *WUH* : ワウ(ペダル)として動作
- ・ *LPR* : プリアンプ前段のボリューム
- ・ *RPR* : プリアンプ後段のボリューム
- ・ *LRV* : リバース後段のボリューム
- ・ *TRV* : トーンコントロール(TREBLE)

- ・ *MND* : トーンコントロール(MIDDLE)
- ・ *BAS* : トーンコントロール(BASS)
- ・ *PRE* : トーンコントロール(PRESENCE)
- ・ *COMP* : コンプレッサーエフェクトのCOMP
- ・ *SPD* : モジュレーション系エフェクトのSPEED
- ・ *DEP* : モジュレーション系エフェクトのDEPTH
- ・ *SP2* : モジュレーション系エフェクトのSPEEDの追加パラメーター
- ・ *DEP2* : モジュレーション系エフェクトのDEPTHの追加パラメーター
- ・ *TIME* : ディレイ系エフェクトのTIME
- ・ *FB* : ディレイ系エフェクトのFEEDBACK
- ・ *LEV* : ディレイエフェクト系のLEVEL
- ・ *REV* : リバースエフェクト系のREVERB
- ・ *OFF* : オフ(コントロールしない)

手順3で設定したコントローラーで、このパラメーター(設定値)をコントロールすることができます。

5. [PHASER]ボタンを押します。

ディスプレイにはパラメーターの可変最小値(コントローラーを最小に設定したときのパラメーターの値)が表示されます。

[UP][DOWN]ボタンで値(0.0~10.0)を設定します。

6. [ROTARY]ボタンを押します。

ディスプレイにはパラメーターの可変最大値(コントローラーを最大に設定したときのパラメーターの値)が表示されます。

[UP][DOWN]ボタンで値(0.0~10.0)を設定します。

7. [UTILITY]ボタンを押すと、プレイモードへ戻ります。

この外部コントロール設定は、パッチデータに含まれます。

またユーティリティモードにおいて、パッチデータでの設定に関係なく常にユーティリティモードの外部コントロールをON(有効)または常に外部コントロールをOFFに設定する機能もあります。(24ページ)

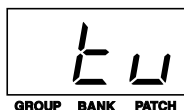
チューナーモード

ギターをチューニングするためのモードです。チューナーモードでは、DG-Stompはクロマチックオートチューナーとして動作します。

チューナーモードへの入り方

以下のどの方法でもチューナーモードに入ることができます。

- ・プレイモードで、[UTILITY]と[STORE] ボタンを同時に押す。
- ・プレイモードで、ディスプレイに“と”が表示されるまで BANK スイッチを押し続ける。(バンクセレクトモードの次にチューナーモードになる)
- ・バンクセレクトモードで、ディスプレイに“と”が表示されるまで BANK スイッチを押し続ける。



チューナーモードでは、DG-Stompの各出力 (OUTPUT, PHONES, DIGITAL OUT) はミュートされます(音が出ません)。

チューニングの方法

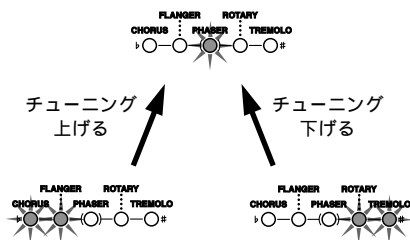
弾いた弦に一番近い音の音名がディスプレイに表示され、その音に対して高いか低いかが5つのランプで表示されます。

1. 基準ピッチを変更する場合は、[UP]/[DOWN] ボタンにより設定します。(“基準ピッチの設定”参照)
2. チューニングしたい弦を弾きます(単音で鳴らします)。
 - ・まず、ディスプレイに合わせたい音名が表示されるように、ギターをチューニングします。音名表示は以下の通り。

A	B \flat	C	D \flat	D	E \flat	E	F	G \flat	G	A \flat
A	B \flat	C	D \flat	D	E \flat	E	F	G \flat	G	A \flat

- ・チューニングが低い場合は CHORUS, FLANGER のランプが、高い場合は ROTARY, TREMOLO のランプが点灯します。PHASER のランプだけが点灯するように細かくチューニングできたら OK です(このとき、BANK スイッチのランプも点灯します)。

チューニングOK!



3. [UTILITY] ボタンを押すか、BANK スイッチを押すと、プレイモードへ戻ります。

基準ピッチの設定

通常、基準ピッチは A = 440 Hz に設定されますが、生ピアノなど 440 Hz 以外の基準ピッチでチューニングされている場合もあります。DG-Stomp では、436 Hz ~ 444 Hz の範囲で基準ピッチを設定することができます。

1. チューナーモードで UP または DOWN ボタンを押すと、ディスプレイに基準ピッチが表示されます。
 - * DG-Stomp は電源を ON にした際、基準ピッチが 440 Hz に設定されます。
2. [UP] ボタンを押すごとに 1 Hz アップ、[DOWN] ボタンを押すごとに 1 Hz ダウンします。

ユーティリティモード

ユーティリティモードでは、フットスイッチやMIDI、外部コントロール、EXP. PEDAL端子などの、DG-Stompのシステム全体に関する設定を行います。

ユーティリティモードについて

プレイモードでUTILITY ボタンを押す(ランプ点灯)ことで、ユーティリティモードに入ります。ユーティリティモードでUTILITY ボタンを押す(ランプ消灯)と、プレイモードに戻ります。

ユーティリティモードでは、MIDIの受信はできません。MIDI受信による操作はプレイモードで行ってください。

ユーティリティモードでは、以下の7つの機能を設定できます。それぞれの機能の切り替えは、アンプセレクトスイッチで行います。

- ・ LEAD1 : フットスイッチ機能
- ・ LEAD2 : MIDI機能
- ・ DRIVE1 : 外部コントロール設定
- ・ DRIVE2 : EXPペダル設定
- ・ CRUNCH1 : ワウペダル設定
- ・ CRUNCH2 : スピーカーシミュレーターの動作モード
- ・ CLEAN1 : プリアンプ回路のON/OFF設定

フットスイッチ機能

[UTILITY] ボタンを押し、アンプセレクトスイッチをLEAD1("FS"と表示)にします。

フットスイッチの機能の切り替え

[COMP] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、フットスイッチ1~3の機能を設定します。

- ・ PRG : フットスイッチでパッチの切り替えを行います。
- ・ EFF : フットスイッチでエフェクトのON/OFFを行います。
スイッチ1 : モジュレーションエフェクト
スイッチ2 : ディレイエフェクト
スイッチ3 : リバップエフェクト

送信コントロールチェンジNo.

フットスイッチのON/OFF時に送信するMIDIのコントロールチェンジ番号を設定します。(フットスイッチの機能を"EFF"にした場合のみ有効)

[CHORUS] ボタンを押すと、ディスプレイに現在の設定値が表示されます。

設定するフットスイッチを押し(ランプ点灯) [UP][DOWN] ボタンで設定します。

- ・ EFF : MIDIを送信しません。
- ・ 1~32, 64~95 :
送信するコントロールチェンジ番号

スイッチOFF時の送信コントロールチェンジ値
フットスイッチをOFFにした時に送信するMIDIのコントロールチェンジ値を設定します。(フットスイッチの機能を"EFF"にした場合のみ有効)

[FLANGER] ボタンを押すと、ディスプレイに現在の設定値が表示されます。

設定するフットスイッチを押し(ランプ点灯) [UP][DOWN] ボタンで設定します。

- ・ 0~127 : 送信するコントロールチェンジ値

スイッチON時の送信コントロールチェンジ値
フットスイッチをONにした時に送信するMIDIのコントロールチェンジ値を設定します。(フットスイッチの機能を"EFF"にした場合のみ有効)

[PHASER] ボタンを押すと、ディスプレイに現在の設定値が表示されます。

設定するフットスイッチを押し(ランプ点灯) [UP][DOWN] ボタンで設定します。

- ・ 0~127 : 送信するコントロールチェンジ値

MIDI機能

[UTILITY] ボタンを押し、アンプセレクトスイッチをLEAD2("MIDI"と表示)にします。

MIDIプログラムチェンジ受信テーブルの作成
受信したMIDIプログラムチェンジNo.(以降PRG No.)に対して、DG-Stompのどのパッチを呼び出すかを設定します。

[COMP] ボタンを押して受信MIDI PRG No.を設定します。[UP][DOWN] ボタンで選択します。

- ・ 1~128 : MIDIプログラムチェンジNo.

[CHORUS] ボタンを押してDG-Stompのパッチ

番号を設定します。プレイモードでのパッチ選択と同様、[UP]/[DOWN]ボタンまたはフットスイッチで選択します。

- ・ *011~933, 011~933* :
呼び出すパッチの番号

MIDIプログラムチェンジ送信テーブルの作成
フットスイッチ1~3を押してパッチを呼び出した時に、MIDI OUT端子からMIDIプログラムチェンジ No. を送信して、外部エフェクターなどをコントロールすることができます。
どのパッチを呼び出したときに、何番のMIDI PRG No.を送信するかを設定します。

[FLANGER]ボタンを押してDG-Stompのパッチ番号を設定します。プレイモードでのパッチ選択と同様、[UP]/[DOWN]ボタンまたはフットスイッチで選択します。

- ・ *011~933, 011~933* :
呼び出されたパッチの番号

[PHASER]ボタンを押して送信MIDI PRG No.を設定します。[UP]/[DOWN]ボタンで選択します。

- ・ *1~128* : MIDIプログラムチェンジNo.

MIDI受信チャンネルの設定
DG-StompのMIDI受信チャンネルを設定します。ここで設定されたMIDIチャンネルがバルクレシーブ時のデバイスNo.になります。

[ROTARY]ボタンを押し、[UP]/[DOWN]ボタンで、MIDI受信チャンネルを設定します。

- ・ *OFF* : MIDIを受信しません。
- ・ *ALL* : 全チャンネルのMIDIを受信します。
- ・ *1~16* : 受信するMIDIチャンネル

MIDI送信チャンネルの設定
DG-StompのMIDI送信チャンネルを設定します。ここで設定されたMIDIチャンネルがバルクアウト時のデバイスNo.になります。

[TREMOLO]ボタンを押し、[UP]/[DOWN]ボタンで、MIDI送信チャンネルを設定します。

- ・ *1~16* : 送信するMIDIチャンネル

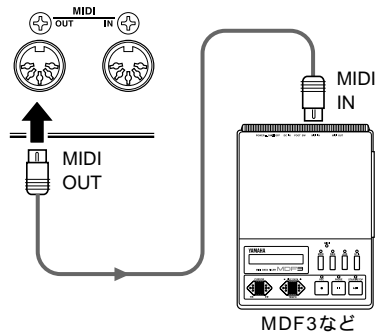
MIDIマージのON/OFF設定
DG-StompのMIDI IN端子に入力されたMIDI信号をそのままMIDI OUT端子にも出力するか、出力しないかを設定します。

[DELAY]ボタンを押し、[UP]/[DOWN]ボタンで、マージを設定します。

- ・ *on* : MIDI OUTに出力します。
- ・ *off* : MIDI OUTに出力しません。
- * マージon時のMIDI OUT出力は、MIDI受信チャンネルの設定とは関係なく出力されます。

MIDIバルクアウトの実行
DG-Stompのユーザーエリアデータおよびユーティリティモードでの設定を、ヤマハMDF3などのMIDIデータを保存できる装置に送信して、バックアップをとることができます。

DG-StompのMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子とを、MIDIケーブルで接続します。



全ユーザーエリアデータ(*011~933*)+ユーティリティ設定を、バルクアウトする場合は、
[TAPE ECHO]ボタンを押し(ディスプレイに"*ALL*"と表示)、[STORE]ボタンを押すとMIDIバルクアウトが実行されます。

ユーザーエリアデータの1つを選んでバルクアウトする場合は、

[SPRING]ボタンを押した後、バルクアウトするパッチ番号を設定します。プレイモードでのパッチ選択と同様、[UP]/[DOWN]ボタンまたはフットスイッチで選択します。

選択後 [STORE]ボタンを押すと1パッチのMIDIバルクアウトが実行されます。

- * 送信完了後、パッチ番号選択状態に戻ります。

MIDIバルクインについて
ヤマハMDF3などのMIDI装置にバックアップしておいたデータを、DG-Stompに戻す操作です。

外部MIDI機器のMIDI OUT端子とDG-StompのMIDI IN端子とを、MIDIケーブルで接続します。

ユーティリティモード

外部MIDI機器側でバルクアウトを実行すると、DG-Stompはバルクデータを受信します。

* MIDIバルクインは、DG-Stompのプレイモードで行ってください。

MIDIバルクインを実行すると、ユーザーエリアのパッチ内容は書き換えられてしまいます。よくご確認の上で、バルクインを実行してください。

外部コントロール設定

20ページ『外部コントロールの設定』と同様に、EXP. PEDAL端子に接続したフットコントローラー、またはMIDI IN端子に接続したMIDI機器から、DG-Stompのボリュームやトーン、エフェクトのパラメーターをコントロールするための設定です。

[UTILITY] ボタンを押し、アンプセレクトスイッチをDRIVE1(“*LU*”と表示)にします。

外部コントロールの動作モードの設定

[COMP] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、外部コントロール設定の動作モードを設定します。

- *LU* b : 常にユーティリティモードでの外部コントロール設定が有効になります。
- *PrU* : パッチに設定されている外部コントロール設定が有効になります。
- *oFF* : 常に外部コントロールはOFF。

外部コントロール番号の設定

[CHORUS] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、コントロール番号(1~8)を設定します。

* 『外部コントロールの設定』(20ページ)参照。

外部コントローラーの設定

[FLANGER] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、コントローラーの種類(*EP*, 1~3, 1, 64~95)を設定します。

* 『外部コントロールの設定』(20ページ)参照。

コントロールするパラメーターの設定

[PHASER] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、コントロールするパラメーター(*UUH*~)を設定します。

* 『外部コントロールの設定』(20ページ)参照。

パラメーターの変可最小値設定

[ROTARY] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、パラメーターの変可最小値(コントローラーを最小に設定したときのパラメーターの値: *00* ~ *100*)を設定します。

* 『外部コントロールの設定』(20ページ)参照。

パラメーターの変可最大値設定

[TREMOLO] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、パラメーターの変可最大値(コントローラーを最大に設定したときのパラメーターの値: *00* ~ *100*)を設定します。

* 『外部コントロールの設定』(20ページ)参照。

EXPペダル設定

外部コントロール設定でコントローラーに“*EP*” EXPペダルを選択している場合に有効な設定です。

[UTILITY] ボタンを押し、アンプセレクトスイッチをDRIVE2(“*EP*”と表示)にします。

EXPペダル最小値設定

EXPペダルが最小値を示すポジションを設定します。

[COMP] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、ポジション(*0* ~ *128*)を設定します。

[COMP] ボタンを押しながらEXPペダルを動かすことでも設定できます。

* 最大値との関係で分解能が128未満には設定できません。

EXPペダル最大値設定

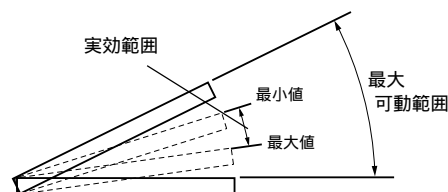
EXPペダルが最大値を示すポジションを設定します。

[CHORUS] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、ポジション(*127* ~ *255*)を設定します。

[CHORUS] ボタンを押しながらEXPペダルを動かすことでも設定できます。

* 最小値との関係で分解能が128未満には設定できません。

* EXPペダルスイッチの設定値以上には設定できません。

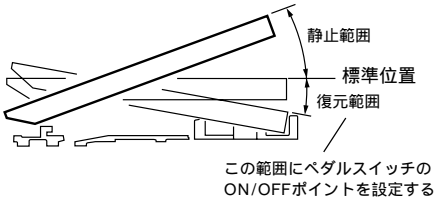


EXPペダルスイッチ設定

EXPペダルをワウペダルとして使う場合、ペダルを踏み込んだときにワウをON/OFFすることができます。このON/OFFが切り替わるペダル角度を設定します。

[FLANGER] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、ポジションを設定します。
[FLANGER] ボタンを押しながらEXPペダルを動かすことでも設定できます。

- EXPペダル最大値の設定値以下には設定できません。
- 値をOFFにすると、ワウペダルのスイッチ機能がOFFになりスイッチとして機能しません。
- ヤマハフットコントローラーFC-7には、標準位置からさらに踏み込んだ場合、足を離すと自然に標準位置に戻る「フォールテシモ機能」があります。このフォールテシモ機能の動作範囲に、EXPペダルスイッチ機能を設定すると便利です。



EXPペダル送信コントロールチェンジNo.
EXPペダル操作時に送信するMIDIのコントロールチェンジ番号を設定します。

[PHASER] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで設定します。

- *oFF* : MIDIを送信しません。
- *1~32, 64~95* :
送信するコントロールチェンジ番号

ワウペダル設定

外部コントロール設定でコントロールするパラメーターに *WUH* (ワウペダル) を選択している場合に有効な設定です。

[UTILITY] ボタンを押し、アンプセレクトスイッチをCRUNCH1(“*WUH*”と表示)にします。

ワウペダル最低周波数の設定

ワウペダルの周波数変化の最低周波数を設定します。

[COMP] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、周波数 *150~500* (Hz) を設定します。

ワウペダル最高周波数の設定

ワウペダルの周波数変化の最高周波数を設定します。

[CHORUS] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、周波数 *150~500* (kHz) を設定します。

ワウペダルQの設定

ワウペダルの周波数カーブを設定します。

[FLANGER] ボタンを押し、[UP][DOWN] ボタンで、カーブ *100~500* を設定します。

スピーカーシミュレーターの動作モード

[UTILITY] ボタンを押し、アンプセレクトスイッチをCRUNCH2にします。ディスプレイに現在の設定が表示されます。

[UP][DOWN] ボタンで、スピーカーシミュレーターの動作モードを設定します。

- *oLb* : 常にスピーカーシミュレーターはONになります。
- *PrU* : パッチに設定されている通りに、スピーカーシミュレーターがON/OFFされます。
- *oFF* : 常にスピーカーシミュレーターはOFF。

ブリアンプ回路のON/OFF設定

DG-Stompのブリアンプ回路を使わないことで、DG-StompをエフェクターやMIDIフットコントローラーとして使うことができます。

[UTILITY] ボタンを押し、アンプセレクトスイッチをCLEAN1にします。

[UP][DOWN] ボタンで、ブリアンプ回路のON/OFFを切り替えます。

- *oN* : ブリアンプ回路をON(使用)。
- *oFF* : ブリアンプ回路をOFF(使用しない)。

エラーメッセージ

DG-Stompにエラーが発生した場合、ディスプレイに次のエラーメッセージNo.が表示されます。操作を一時中断し、それぞれの対処方法に従ってください。

E1: MIDI受信バッファフル

- 【原因】 受信したMIDIデータがバッファからあふれました。
- 【対処方法】 送信データを減らすか、バルク送信の間隔を開けて再送信してください。

E2: 通信エラー

- 【原因】 MIDI通信時に異常が起きました。
- 【対処方法】 接続などの異常がないか確認して、再度送信してください。

E3: バルク受信チェックサムエラー

- 【原因】 バルクダンプ受信時にデータのチェックサムが合いません。
- 【対処方法】 接続や送信データを確認して再度送信してください。

E4: バルク受信データ異常

- 【原因】 バルクダンプ受信時にデータに異常があります。
- 【対処方法】 接続や送信データを確認して再度送信してください。

E5: バックアップバッテリーエラー

- 【原因】 バックアップバッテリーが消耗してきました。
- 【対処方法】 そのままご使用を続けると内部のデータが消えてしまいます。お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にバックアップバッテリーの交換をお申し付けください。

故障かな?と思ったら

音が出ない

- 電源アダプターは正しく接続されていますか？
- ギターのボリュームは上がっていますか？
- GAINツマミが 0 になっていませんか？
- MASTERツマミが 0 になっていませんか？
- OUTPUTツマミが 0 になっていませんか？
- EXPペダルでボリュームをコントロールしている場合は、ペダルを踏み込んでみてください。
- チューナーモードになっていませんか？
- [UTILITY] ボタンまたはBANKスイッチを押してプレイモードに移ってください。

ツマミを回しても音が変わらない

- ディスプレイの数値が変わるまで、ツマミを回してから設定してください。(12ページ)
- そのツマミのエフェクトはONになっていますか？エフェクトのボタンを押してエフェクトを選んでから、ツマミを回して設定してください。(12ページ)

MIDIの送信ができない

- 受信側の機器との間でMIDIチャンネルが合っていますか？(23ページ)
- MIDIマージがOFFに設定されていませんか？(23ページ)

MIDIの受信ができない

- DG-Stompはプレイモードになっていますか？プレイモードにして、受信をやり直してください。
- DG-StompのMIDI受信チャンネルがOFFに設定されていませんか？(23ページ)

仕様

デジタル部

- ・完全デジタルシグナルプロセッシング
- ・8チャンネルプリアンプ
- ・デジタルエフェクト
 - ・コンプレッサー
 - ・コーラス、フランジャー、フェイザー、ロータリースピーカー、トレモロ
 - ・デジタルディレイ、テープエコー
 - ・スプリングリバーブ、ホールリバーブ、プレートリバーブ
- ・タップテンボ機能(ディレイタイム)
- ・スピーカーシミュレーター：16タイプ
- ・外部コントロール機能(EXPペダル/MIDI)：8コントローラー/パラメーター
- ・ワウ機能
- ・チューナー機能(クロマチック、オート)

MIDI機能

- 受信 Program Change(Program Change Table 作成可) Control Change, Bulk In
- 送信 Program Change, Control Change, Bulk Out, Merge Out

コントローラー/スイッチ

トップパネル

プッシュスイッチ×17

UP, DOWN, MANUAL, UTILITY, STORE, COMP, CHORUS, FLANGER, PHASER, ROTARY, TREMOLO, DELAY, TAPE ECHO, SPRING, HALL, PLATE, SP. SIM

ツマミ×15

AMP SELECT, GAIN, MASTER, TREBLE, MIDDLE, BASS, PRESENCE, COMP, SPEED, DEPTH, TIME, FEEDBACK, LEVEL, REVERB, OUTPUT

フットスイッチ×4

1, 2, 3, BANK

リアパネル

STAND-BY ON/OFF, INPUT LOW/HIGH

ディスプレイ

- 7セグメントLED(3ケタ)×1
- プッシュスイッチLED×17
- フットスイッチ用LED×4

接続端子

INPUT：標準フォンモノジャック
OUTPUT L/MONO, R：標準フォンモノジャック
PHONES：標準フォンステレオジャック
EXP. PEDAL：標準フォンステレオジャック
DIGITAL OUT：COAXIAL
MIDI IN, MIDI OUT：5 pin DIN

A/Dコンバーター

20ビット+3ビットフローティング

D/Aコンバーター

20ビット

サンプリング周波数 48 kHz

メモリー数 プリセット：90
ユーザー：90

入力レベル/インピーダンス (プリアンプバイパス時)

INPUT HIGH：-25dBm/1 M
INPUT LOW：-15dBm/1 M

出力レベル/インピーダンス

OUTPUT L/MONO, R：0dBm/1 k
PHONES：0dBm/47 (47 負荷時)

電源 専用電源アダプター(AC-10)
入力：AC 100V, 50/60 Hz
出力：AC12V, 1000mA

消費電力 15 W

寸法(W x H x D) 280 x 70 x 184 mm

重量 2.2 kg

付属品 電源アダプター(AC-10)
取扱説明書(本書)

* 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ファンクション...	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能範囲 1 - 16 1 - 16	1 - 16, off 1 - 16, off	電源オフ後も記憶可能 (送受信共通)
モード	電源ON時 メッセージ 代用 1, 3 X *****	1, 3 X X	電源オフ後も記憶可能
ノート ナンバー	音域 X *****	X X	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ X X	X X	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別 X X	X X	
ピッチベンド	X	X	
コントロール チェンジ	0 1 - 31 32 - 63 64 - 95 95 - 127 X O X O X	X O X O X	

プログラム チェンジ	設定可能範囲	0 0 - 127 *****	0 0 - 127		
システム エクスクルーシブ		0	0		バルクダンプ
システム コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	x x x	x x x		
システム リアルタイム	クロック コマンド	x x	x x		
AUX	オールサウンドオフ リセット オールコントロール ローカルON/OFF オールノートオフ メッセージ アクティブセンシング リセット	x x x x 0 x	x x x x x x		

0 : あり
x : なし

モード2 : オムニ・オン、モノ
モード4 : オムニ・オフ、モノ

モード1 : オムニ・オン、ポリ
モード3 : オムニ・オフ、ポリ

ブランクチャート

ブランクチャートの使い方

右ページのブランクチャートをコピーして、パッチのセッティングデータをメモしておきましょう。

サウンドの特徴やペダルの用途、外部コントロールの設定などをメモしておこう。

パッチ番号

スピーカーシミュレーターのタイプ

各ツマミのポジション

使用エフェクトに印を付けよう

各パラメーターの値

011			MEMO Flash!のバッキング用。 ペダル: ArEボリューム							
GROUP	BANK	PATCH	AMP	GAIN	MASTER	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	SP. SIM
			DRIVE 1	7	7	8	3	8	5	✓
COMP	CHORUS • FLANGER • PHASER ROTARY • TREMOLO				DELAY • TAPE ECHO			SPRING HALL PLATE		
COMP	SPEED	SPEED+	DEPTH	DEPTH+	TIME	FEEDBACK	LEVEL	REVERB		
5	4	5	3.5	4	4	2	5	4		

また、セッティングをストアする際、次のようなルールでグループやバンクに分けたり、パッチの順番を並べておくと便利です。

- 使用するギターの違いによりグループを分ける。
例) シングルコイル用はグループ1~3、ハンバッキング用はグループ4~6。
- アンプのタイプごとにグループを分ける。
例) グループ1にはLEAD1で作った音、グループ2はLEAD2で作った音。
- サウンドの特徴ごとにグループを分ける。
例) グループ1にはディストーション系、グループ2にはクリーン系。
- ライブで使用する順番にパッチを並べる。
例) バンク1には1曲目で使うパッチ1~3、バンク2には2曲目用...

サービスについて

1. 保証期間

本機の保証期間は、ご購入(保証書による)より満1ヶ年(現金・クレジット・月賦等による区別はございません。また保証は日本国内でのみ有効)と致します。

2. 保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂く場合もあります。

また、お買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいは下記のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続き致します。

3. アフターサービス

満1ヶ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。そのほかご不明の点などございましたら、お買い上げ店あるいは下記のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点までお問い合わせください。

4. 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合いは、使用環境や使用時間などによって大きく異なります。本機を未永く安定してご愛用頂くためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。摩耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ、リレー類、入出力ジャック、接続端子など

ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点

(修理受付および修理品お持込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL(011)612-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL(022)236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184	TEL(044)334-3100
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL(053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL(052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL(06)6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL(087)822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	TEL(082)874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL(092)472-2134

[本社]CSセンター 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内 TEL(053)465-1158

ヤマハ株式会社各事業所 / 営業所 (商品に関する問い合わせ先)

弦打楽器国内営業部	〒430-8650	浜松市中沢町10番1号	TEL(053)460-2433
EM東京事業所	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL(03)5488-5476
EM北海道営業所	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL(011)612-6113
EM仙台営業所	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10	TEL(022)222-6147
EM大阪事業所	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋ブラザビル東館	TEL(06)6252-5231
EM名古屋営業所	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28	TEL(052)201-5199
EM広島営業所	〒730-8628	広島市中区紙屋町1-1-18 ヤマハビル	TEL(082)244-3749
EM九州営業所	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL(092)472-2130

住所及び電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

弦打楽器事業部 国内営業部 ギタードラム営業課

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10番1号 053-460-2433

Printed in Taiwan